

岩手県大槌町における林野火災に対する消防機関の活動について

防災課・広域応援室

1 はじめに

令和8年4月22日、岩手県大槌町で出火した林野火災では、住家1棟、住家以外7棟の建物被害及び約1,633haの山林が焼損し、最大時1,558世帯3,257人に避難指示が発令されるなど大きな被害が発生しました(令和8年5月29日現在)。

本林野火災では、発生直後の急激な延焼拡大から、管轄の釜石大槌地区行政事務組合消防本部、大槌町消防団及び釜石市消防団の対応に加え、岩手県内各地からの応援部隊の派遣、12都道府県からの緊急消防援助隊の派遣、自衛隊の災害派遣がそれぞれ早期に行われ、ヘリによる空中消火や市街地延焼を阻止するための地上からの消火活動等が昼夜を分かたず実施されました。

本稿では、この大槌町における林野火災において、懸命な活動にあたった消防機関の活動を紹介します。



2 災害概要 (令和8年5月29日現在)

(1) 出火場所

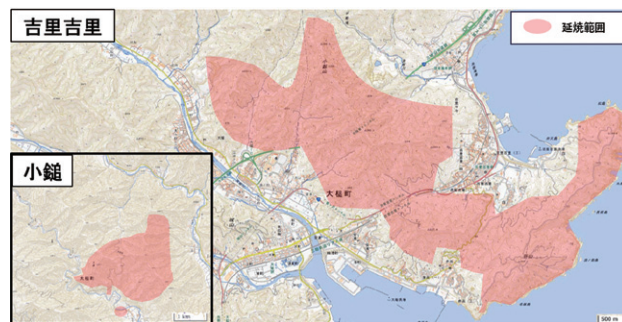
岩手県上閉伊郡大槌町小鉾
岩手県上閉伊郡大槌町吉里吉里

(2) 主な時間経過

出火 【小鉾・吉里吉里】 調査中
覚知 【小鉾】 令和8年4月22日 13時53分
【吉里吉里】 令和8年4月22日 16時22分
鎮圧 【小鉾・吉里吉里】 令和8年5月2日 13時00分
鎮火 【小鉾・吉里吉里】 令和8年5月29日 13時00分

(3) 損害

林野被害 【小鉾】 約446ha (調査中)
【吉里吉里】 約1,187ha (調査中)
人的被害 軽傷2名
住家・非住家被害 住家1棟
住家以外7棟



3 消防機関の活動

本林野火災は、約10km離れた小鉾地区(22日13時53分覚知)と吉里吉里地区(同日16時22分覚知)の2箇所で開催しました。発災の初日から管轄の釜石大槌地区行政事務組合消防本部、大槌町消防団、釜石市消防団、隣接の県内応援隊及び岩手県防災ヘリコプターによる消火活動が行われました。同日16時には自衛隊への災害

派遣要請が行われ、翌日から自衛隊ヘリコプターによる散水が実施されました。

消防庁では、23日8時30分、延焼状況や過去の林野火災の教訓を踏まえ、まず、宮城県の統括指揮支援隊及び指揮支援隊並びに青森県及び秋田県の航空小隊に緊急消防援助隊の出動の求めを行い、現地の指揮支援活動を開始するとともに、陸上部隊の追加の要否も含めて情報収集にあたりました。14時00分には岩手県知事からの応援要請があり、同時刻に宮城県の都道府県大隊に出動の求めを行いました。その後も延焼状況や消防活動の状況に応じて部隊を増強し、24日13時05分には、消防庁長官の出動の求めから指示に切替えが行われています（以前の出動部隊についても出動の指示に切替え）。最終的には、陸上部隊は地元消防本部、消防団、岩手県全12消防本部の県内応援部隊に加え、11都道県からの緊急消防援助隊約1,200人、合わせて約1,400人規模の体制を構築し、航空部隊は消防防災ヘリコプター最大9機体制で、自衛隊ヘリコプターと連携して消火活動を実施しました。

陸上部隊は、市街地への延焼阻止を主目的に延焼阻止線を設けて昼夜を分かたず消火・警戒活動にあたりました。担当エリアを明確にした部隊配置のほか、新設された安全管理部隊を中心に林野火災特有の安全管理にも配慮しながらローテーションを組んで活動しました。また、水利不足や山中への部隊投入に備え、大型水槽車や長距離送水が可能な海水利用型消防水利システムを搭載した特殊車両、小型救助車等を部隊に多く組み込んで出動させ、有効に活用しました。さらに、ドローンの赤外線カメラを活用して延焼範囲の把握や熱源の確認をするなど、保有する車両・資機材を有効に活用した消火活動を実施しました。

航空部隊は、消防防災ヘリコプターにより上空から情報収集活動及び熱源探査を実施するとともに、地上部隊が進出困難なエリアにおいて、市街地方向への延焼拡大を抑制することを主目的に消火活動を実施しました。本林野火災は延焼範囲が2箇所に分かれていたことから、小回りが効き、河川の水を活用して給水ができる消防防災ヘリは小鎚地区を担当し、散水量の大きい自衛隊の大型ヘリは市街地に近い吉里吉里地区を担当するなど、活動空域を分けて消火活動を行いました。

懸命な消火活動等により、覚知から11日目の5月2日に鎮圧、38日目の5月29日に鎮火となりました。

